

事後検証における論点

「岩手山」

【論点 1】 噴火警戒レベル 2 引き上げの妥当性の検討

地震が弱い状況で、地殻変動は緩やかながら量的には 1998 年並み
黒倉山付近の微小な地震が増加

干渉 SAR で浅部膨張を確認したことから、レベル 2 に引き上げ

⇒

レベル 2 への引き上げは妥当であったか

引き上げるタイミングとしてはいつが適切であったか

【論点 2】 判定基準等の見直しの必要性の検討

現在の判定基準は 1998 年の事例を多く参考にしている

噴火シナリオも 1998 年の事例を踏まえて作成されている

⇒

現在進行中の活動が終了した後に、噴火シナリオやレベル判定基準を見直す
場合、どのような点に留意すべきか

【論点 3】 今後の方針について

レベル 3 への引き上げの考え方

レベル 1 への引き下げの考え方

「御嶽山」

【論点 1】 1 月 21 日の現象が、事前にレベルを引き上げておくべき現象か等の検討

御嶽山においては、レベル 1 であったものの、静穏に戻る傾向として、地震回数が基準にある 50 回/日を満たさなくてもレベル 2 に引き上げる運用をしていた

12 月中旬から地震の増減を繰り返す

1 月 16 日にレベル 2 に引上げ

1 月 21 日に傾斜変動を伴う火山性微動が発生し、その後地震活動は落ち着く
⇒

1 月 21 日の現象では噴火は発生していない認識だが、事前にレベルを上げておくべき現象か否か

レベルを上げておくべき現象であるならば、レベル判定基準を見直す必要があるか、そうであれば、どのような考え方を加えるべきか